

各分野における目標に対する現状一覧

分野	目標	目標値 (2030年度)	基準年度又は目標設定時の状況		最新の状況	
			数値	年度	数値	年度
脱炭素・省エネルギー	■府域における温室効果ガス排出量	40%削減 (3,369万トン)	5,615万トン	2013	19.4%削減 (4,528万トン)	2022
	■府庁の事務及び事業に伴う温室効果ガス排出量	45%削減 (30.3万トン)	55.1万トン	2013	38.0万トン (31.0%削減)	2023
	■自立・分散型エネルギー導入量 (太陽光発電、燃料電池、廃棄物発電等導入量)	250万kW以上	185.3万kW	2019	206.5万kW	2023
	■再エネ利用率 (電力需要量に占める再生可能エネルギー利用率)	35%以上	20.8%	2019	21.0%	2023
	■エネルギー利用効率 (府内総生産あたりのエネルギー消費量)	40%以上改善	15.0PJ/兆円	2012	12.7PJ/兆円 (15.5%改善)	2021
資源循環	■一般廃棄物 ^{注1}					
	排出量	276万トン	308万トン	2019	282万トン	2023
	再生利用率	17.7%	13.0%	2019	12.6%	2023
	最終処分量	31万トン	37万トン	2019	32万トン	2023
	1人1日当たり生活系ごみ排出量	400g/人・日	450g/人・日	2019	412g/人・日	2023
	■産業廃棄物 ^{注1}					
	排出量	1,368万トン	1,357万トン	2019	1,357万トン	2019
	再生利用率	33.2%	32.4%	2019	32.4%	2019
	最終処分量	33万トン	40万トン	2019	40万トン	2019
	■プラスチックごみ ^{注1}					
	プラスチックの焼却量	36万トン	48万トン	2019	-	-
	有効利用率	94%	88%	2019	-	-
	容器包装プラスチック(一般廃棄物のみ)の排出量	21万トン	24万トン	2019	22万トン	2023
	再生利用率	50%	27%	2019	29%	2023
	■食品ロスの削減					
食品ロス量	半減 (2000年度比)	65.4万トン	2000	37.8万トン	2022	
食品ロス削減のための複数(2項目以上)の取組を行う府民の割合	90%	81.9%	2020	86.4%	2024	
全てのいのちの共生	■自然の恵みに関する意識の向上 ■自然環境に配慮した行動の促進					
	自然環境に配慮した行動をする府民の割合 ^{注2}	-	18.6%	2020	12.1%	2024
	■自然環境の持続的な保全の推進 ■事業者等と連携した保全活動の推進 ■特定外来生物の防除の推進					
	連携した取り組みを行う事業者・団体数 ^{注2}	-	299事業者・団体	2020	309事業者・団体	2024
	府内で確認された特定外来生物のうち必要な対策がなされた割合 ^{注2}	-	28.1%(9種/32種)	2020	29.4%(10種/34種)	2024
	■市町村や保全団体等と連携したモニタリング体制の構築					
法令等に基づく地域指定の割合(陸域) ^{注2}	-	24.6%	2020	24.6%	2024	
健康で安心な暮らし	■大気環境					
	二酸化窒素(NO2)について①全局0.06ppm以下を達成し、さらに②全局0.04ppm以下をめざす。	①0.06ppm未満の測定局 100% ②0.04ppm未満の測定局 100%	①100% (99局/99局) ②91.9% (91局/99局)	2020	①100% (92局/92局) ②100% (92局/92局)	2024
	光化学オキシダントについて、1時間値0.12ppm(注意報発令レベル)未満を全ての測定地点で達成	0.12ppm未満の測定局 全局	27局(／68局)	2020	46局(／63局)	2024
	■河川環境					
	BODの生活環境保全目標達成	達成率100%	96.3%	2020	96.3%	2024
	■大阪湾の環境					
	大阪湾に流入するプラスチックごみの量	2021年度より半減	58.8トン	2021	51.3トン	2022
	底層溶存酸素量の改善をめざす。	-(注3)	0% (3地点中0地点)	2021	33% (3地点中1地点)	2024
藻場面積95haを目指す。	藻場面積95ha (2031年度)	84ha	2021	84.4ha	2024	
■化学物質						
環境リスクの高い化学物質の排出量を2019年より削減	2019年度より削減	4,085トン	2019	3,823トン	2023	
魅力と活力ある快適な地域づくり	■府域面積に対する緑地の確保	約4割以上確保 ^{注1}	約4割	2009	-	-
	■緑化(市街化区域)	緑被率20% ^{注1} (現況の1.5倍)	13.9	2009	約14%	2024
	■地球温暖化の影響を除外した熱帯夜日数	3割削減	37日	2000	36日	2022

注1 排出量や再生利用率などの各項目の目標値は2025年度

注2 モニタリング指標(取組内容を検証する際に活用する指標)

注3 底層溶存酸素量については、国において環境基準の達成状況の評価方法が定まっておらず、環境基準点も検討中であることから、当面の間は、類型指定(生物3)がなされた大阪湾奥部の生活環境項目(GOD等5項目)の環境基準点の各地点において確認する。